

接続詞 2

ここでは **that** 節と間接疑問文を紹介します。基本的に中学で習うものですが、一部高校の内容も含まれています。

1. that 節

1 that 節とは？

that は「主語＋動詞」の節をくっつける働きをするものです。そして、**that** 以下は「～すること」を意味する、名詞と同じ働きをする節になります。

例文：

I know that you will change your school.

S V O (名詞節)

(私は君が引っ越すことを知っている。)

では、もう1つ例文を紹介します。

例文：

It is true that I won the game.

(私が試合に勝ったことは本当だ。)

この例文では **true**、そして上の例文では **certain** が出てきていますが、この「**It is … that ～.**」の…部分に使われる単語はある程度決まっています。その中でもよく使うものを紹介します。

- **interesting** (おもしろい)
- **surprising** (驚き)
- **sad** (悲しい)
- **unbelievable** (信じられない)
- **a pity** (残念なこと)
- **strange** (変な)
- **a lie** (うそ)
- **natural** (当然) 等

これらがよく使われます。

2 補語になるパターン

○ … is that ~.

意味： 「…は～ことだ」

例文：

The problem is that it rains heavily.

S V C

(問題はひどく雨が降っていることだ。)

The question is that he wasn't there.

S V C

(問題はそこに彼がいなかったことだ。)

ここで使っている **problem, question** 以外では、**fact** (真実は) がよく使われます。

3 目的語になるパターン

目的語になる場合は、通常2通りのパターンがあります。そして、目的語を作る **that** は省略できます。

○ 主語＋動詞＋**that** ～.

意味： 「…が～ことを…」

例文：

I believe that you can come.

S V O

(私は君が来られることを信じています。)

この例文では **believe** を使っていますが、ここで使われる動詞はある程度決まっています。その中でも良く使うものを紹介します。

- **think** (思う)
- **know** (知っている)
- **hear** (聞く)
- **hope** (望む)
- **expect** (期待する) 等

これらがよく使われます。

○ 主語+be+形容詞+that ~.

意味： 「…が～ことを…」

例文：

I am sorry that I lost your game.

(あなたのゲームをなくしてごめんなさい。)

この例文では **sorry** を使っていますが、ここで使われる形容詞はある程度決まっています。その中でも良く使うものを紹介します。

- **afraid** (心配している)
- **sure** (確信している)
- **happy** (嬉しい)
- **glad** (喜んでいる) 等

これらがよく使われます。

3. 間接疑問文

1 間接疑問文とは？

疑問詞から始まる名詞節を間接疑問文といいます。1と2で **that** 節を解説していますが、その **that** が疑問詞に変わった形だと思って下さい。

例文：

I don't know when he comes.

S V 間接疑問文（名詞節）

（私は彼がいつ来るのか知りません。）

4. 間接疑問文の用法

基本的に **that** 節と同じで名詞節を作り、「主語・補語・目的語」になることができます。また、「主語・補語・目的語」のいずれの場合も「疑問詞＋主語＋動詞」の語順になります。

1 主語になるパターン

○ It is … + 間接疑問文.

間接疑問文の作る節をそのまま主語にしても構いませんが、主語になる場合は形式主語の **it** を用いるのが一般的です。

例文：

[形式主語 **It**]

It is clear who broke this window.

形式主語 真主語

(誰がこの窓を割ったかは明らかだ。)

※こちらのほうが一般的です

[間接疑問文をそのまま主語]

Who broke this window is clear.

S V C

(誰がこの窓を割ったかは明らかだ。)

※形式主語 **It** を使うほうが一般的です

このように、形式主語 **It** を使っても使わなくても英作はできますが、**It** を使ったほうが一般的です。

例文：

It is unclear who comes.

(誰が来るのか不明です。)

2 補語になるパターン

- … is + 間接疑問文.

例文：

The problem is where he lives.

S V C

(問題は彼がどこに住んでいるかだ。)

The question is where she went.

S V C

(問題は彼女がどこに行ったかです。)

3 目的語になるパターン

- 主語+動詞+間接疑問文.

例文：

I know why she was scolded.

S V O

(私はなぜ彼女が叱られたかを知っています。)

I don't know what you bought.

S V O

(私はあなたが何を買ったのか知りません。)

5. do you think + 間接疑問文

間接疑問文でよく出題されるのが、この「do you think + 間接疑問文」形です。do you think と間接疑問文をくっつける場合は、疑問詞を文頭に置きます。疑問文なので ? も忘れないで下さい。

例文 :

do you think
+ what she wants
= What do you think she wants?
(あなたは彼女が何を欲しいと思いますか。)

do you think
+ how much that hat is
= How much do you think that hat is?
(あなたはあの帽子がいくらだと思いますか。)

how much は、how much で1つの疑問詞だと考えてください。how だけを文頭に持つていくものではありません。

○ 答え方 I think (that) ～.

「～と思いますか。」と聞かれていますので、「I think (that) ～.」の形で
答えます。

またこの「I think (that) ～.」の形は、このページの 2. 3 で解説してい
る that 節が目的語になるパターンです。よって、think の直後の that は
あってもなくても構いません。

例文：

[疑問文]

Who do you think that man is?

(あの男性は誰だと思いますか。)

[答え]

= I think (that) he is Bob's brother.

(彼はボブの兄弟と思うよ。)

Copyright (C) 2008 All Rights Reserved, ちょいデブ親父の英文法